

第 35 回歴史地震研究会（大分大会）のお知らせ（第 3 報）

第 35 回歴史地震研究会（大分大会）のプログラムが決定いたしました。講演要旨送付、懇親会・巡検参加申し込みの締め切りは 7 月 31 日（火）、申込先・送付先は、8. 懇親会・巡検参加申し込み先、講演要旨送付先にあります。

1. 場所

J:COM ホルトホール大分 3 階 301・302・303 会議室

大分県大分市金池南一丁目 5 番 1 号（JR 大分駅 上野の森口 徒歩約 2 分）

<http://www.horutohall-oita.jp/>

2. 日程及び参加費

2018 年 9 月 22 日（土）～9 月 25 日（火）の 4 日間

22 日 15:00～17:15：公開講演会

23 日 9:30～17:45：研究発表会，18 時より懇親会

24 日 9:15～17:15：研究発表会・総会

25 日：巡検

公開講演会は無料（会員，非会員とも），会場は 302・303 会議室です。

研究発表会は大会参加費として会員 2,000 円，非会員 4,000 円（いずれも課税対象外）を徴収します。

研究発表会の会場は 301～303 会議室（受付 301 会議室，9 時開場&受付開始）です。

懇親会（会費 5,000 円）は J:COM ホルトホール大分内の Horuto Garden で開催します。

巡検の参加費は 6,000 円程度の予定です（昼食・保険含）。

3. 講演要旨について

発表 1 件につき A4 サイズ 1 ページ（厳守），カメラレディ（そのまま印刷可能な）原稿のご用意をお願いします。歴史地震研究会ホームページからダウンロードした標準フォーマット（Word ファイル）を書き換える形で原稿を作成のうえ，原則として Word ファイルを電子メールで提出してください。やむを得ない場合は郵便にてお送り願います。7 月 31 日（火）必着といたします。原稿の送付先は 8. 懇親会・巡検参加申し込み先、講演要旨送付先をご参照ください。

4. 発表について

口頭発表で使用する PC は Windows1 台，Mac1 台をこちらで準備いたします。当日は事前にファイルを集約する予定です。ご発表前の休憩時間までに USB メモリ等でご提出ください。各自でご用意いただいた PC を接続することもできます。

ポスター発表で使用するボードの貼付面のサイズは，高さ 165cm×幅 110cm（天端高は 180cm）です。これに収まるように作成ください。縦長ですのでご注意ください。23 日（日），24 日（月）の両日のコアタイムとも，ポスターの掲示および発表が可能です。

5. 公開講演会

表題：大友氏遺跡と慶長豊後地震

講演：

○坪根伸也 氏 大分市教育委員会文化財課 政策監

「中世豊後府内と大友氏遺跡の発掘調査」

○平井義人 氏 日出町歴史資料館・帆足万里記念館 館長

「慶長豊後地震はどのような地震だったのか～古文書の観点から～」

○佐竹健治 氏 東京大学 地震火山史料連携研究機構・地震研究所 教授

「慶長豊後地震のモデルと別府湾の津波」

参加費等：公開講演会は、入場無料、事前申し込み不要、当日先着順、定員 168 名です

6. 懇親会

日時：9月23日（日）18:00～20:00

場所：J:COM ホルトホール大分 3階 Horuto Garden 大分（研究会会場の横、同フロア）

参加費：5,000 円

参加申し込みは 7月31日（火） まで。申込先は 8. 懇親会・巡検参加申し込み先、講演要旨送付先をご参照ください。

7. 巡検（別府湾沿岸、豊後地震津波痕跡地）

行程： 8:30 頃 JR 大分駅前出発、15:30 頃大分空港・16:10 頃 JR 杵築駅・17:20 頃 JR 大分駅解散
(バス移動)

大友氏遺跡、沖ノ浜、柞原八幡宮、佐賀関（関神社、昼食）、別府湾サービスエリア、奈多宮

参加費： 6,000 円程度（昼食・保険含）

定員： 45 名（先着順に受付中、会員及び研究発表会参加者を優先します）

参加申し込み： 7月31日（火） 締め切り。

- ・申込先は 8. 懇親会・巡検参加申し込み先、講演要旨送付先をご参照ください。
- ・保険加入のため、氏名・住所・生年月日・電話番号（携帯可）をお知らせください。

8. 懇親会・巡検参加申し込み先、講演要旨送付先

電子メールの場合：rekishi2018@ml.histeq.tokyo

第 35 回歴史地震研究会行事委員会：

松崎伸一（委員長）、日名子健二、松浦律子、小松原琢、宍倉正展、室谷智子

手紙・FAX の場合：

〒760-8573 香川県高松市丸の内 2-5

四国電力(株)土木建築部内 第 35 回歴史地震研究会行事委員会 松崎伸一

FAX 番号 087-825-3177

第35回歴史地震研究会（大分大会）プログラム

9月23日（日）、24日（月） 研究発表会

23日（日） 受付9時00分～

口頭発表セッションⅠ 北海道・東北地方の地震と諸現象 9:30～10:30

O-01 西村裕一

北海道の歴史津波における文書記録と地質痕跡の整合性

O-02 原田智也・西山昭仁

1611年慶長の三陸地震の再検討

O-03 松浦律子・佐藤大介

1841年1月19日の陸前の地震について

O-04 榎本祐嗣・山辺典昭・近藤 斎

検証：1993北海道南西沖地震で青苗地区の津波火災は何故起きたのか？

休憩<15分>

口頭発表セッションⅡ 関東地方の地震と諸現象 10:45～11:45

O-05 藤原 治・杉山浩平・上本進二・米田 穰

三浦半島の隆起海食洞から発見された古代・中世の大波の痕跡

O-06 植竹富一

1677年延宝房総沖地震の震源域周辺で発生した地震の揺れ

O-07 三神 厚

元禄地震による東海道の宿場の被害と地盤

O-08 武村雅之

明治村が語る関東大震災

昼休み<1時間>

ポスターセッション コアタイム 12:45～13:30

休憩<15分>

口頭発表セッションⅢ 中部・近畿地方の地震と諸現象 13:45～15:15

O-09 山村紀香・加納靖之

1586年天正地震の震源断層推定：液状化履歴地点における検討から

O-10 西山昭仁

嘉永七年（1854）の伊賀上野地震における京都での対応

O-11 盆野行輝

安政伊賀上野地震における町家倒壊率の再検証

O-12 大邑潤三

1925年北但馬地震における人的被害の要因

O-13 新田康二

伊勢湾・湾内におけるチリ沖地震津波の被害実相 [伊勢市・明和町]

O-14 木股文昭・松多信尚

歴史地震にみる震災後の地場産業の復興 (1) 1891年濃尾地震における東濃の陶器産業と尾張の織物産業

休憩<15分>

口頭発表セッションIV 南海トラフの地震と沿岸域の諸現象 I 15:30~16:30

O-15 山田隆二・荻谷愛彦・木村 誇・對馬あかね・李 貞・中塚 武・井上公夫

新しい年輪年代測定法が可能にした樹木の枯死年と歴史地震記録との対比：南アルプスドンドコ沢と仁和地震の例

O-16 馬場俊孝・権 容大・松野哲男・林 美鶴・市原 寛

徳島県穴喰沖海底地すべり痕のマルチナロービーム測深

O-17 都司嘉宣・今井健太郎・岩瀬浩之

慶長九年十二月十六日(1605年2月3日)地震津波の高知県室戸市、および大分県米水津(よのうづ)の被害状況

O-18 松岡祐也

1605年慶長地震における島津領の津波被害地について

休憩<15分>

口頭発表セッションV 南海トラフの地震と沿岸域の諸現象 II 16:45~17:45

O-19 堀川晴央・中西一郎

安政南海地震後の大晦日に発生した余震の規模と震源域の推定

O-20 今井健太郎・石橋正信・行谷佑一・岩瀬浩之・高橋成実・堀 高峰・安田容子・蝦名裕一

紀伊半島沿岸における1854年安政東海・南海地震における津波痕跡高の再評価

O-21 都築充雄

安政東海地震(1854)における愛知県の寺院被害状況の整理(その4)被災した寺院の復興について

O-22 鏡味洋史・水田敏彦

1944年東南海地震直後の踏査報告の足跡をたどって

懇親会 18:00~

24日(月) 受付9時00分~

口頭発表セッションVI 九州地方(おもに豊後地域)の地震と諸現象 9:15~10:45

O-23 山田昌樹・千葉 崇・Chagué Catherine・篠崎鉄哉・藤野滋弘

別府湾沿岸地域で発見された古津波堆積物

O-24 石橋克彦

文禄五年（1596）の豊後地震と伊予地震が同一地震（閏七月九日）である可能性

O-25 榎原雅治・村田泰輔

文禄5年豊後地震関係史料の再検討

O-26 日名子健二

1596年豊後地震津波で流失した沖ノ浜のブラス宿泊所の位置

O-27 今村隆正・彌富涼子・小沼拓也・雨宮圭吾

大分県の土砂災害の歴史

O-28 水田敏彦・鏡味洋史

1889年熊本地震直後の踏査報告の足跡をたどって

休憩<15分>

功績賞表彰式・総会 11:00~12:00

昼休み<1時間>

ポスターセッション コアタイム 13:00~13:45

休憩<15分>

口頭発表セッションⅦ 史料批判とデータ利活用・その他Ⅰ 14:00~15:30

O-29 宇佐美龍夫・石井 寿

歴史地震総表について

O-30 蝦名裕一・佐竹健治

帝国大学理科大学「地震学及地理学研究材料報告」に記載される津波痕跡の検証

O-31 片桐昭彦

和漢年代記の改訂・増補と地震記事

O-32 濱野未来

京都御所「地震御殿」の造営背景と配置変遷

O-33 加納靖之・水島和哉

明治期の地震史料としての伏見酒造組合文書

O-34 沼田 清

煙と雲にみる震災写真の虚実

休憩<15分>

口頭発表セッションⅧ 史料批判とデータ利活用・その他Ⅱ 15:45~17:15

O-35 阪本真由美

ジョン・ミルンによる国際的な地震観測情報の一元的把握に向けた取り組み

- O-36 塩川太郎・林 麗華
台湾における道教信仰と歴史地震
- O-37 石辺岳男
計器観測時代初期に発生した顕著地震の再検討
- O-38 司 宏俊
地震動予測式による歴史地震の震源位置探索への試み
- O-39 井上公夫
歴史的な大規模土砂災害地点（特に地震関連）の事例紹介
- O-40 松尾裕治・村上仁士
過去の津波災害記録を津波避難タワーに活かす

ポスター発表

- P-01 加納靖之
京都周辺の地震史料の再検討（1）1407年と1408年の地震
- P-02 小松原琢
1586年天正地震で伊勢湾北部は沈降したか？－遺跡発掘調査資料からの検討－
- P-03 今井健太郎，中田令子，兵藤 守，堀 高峰，高橋成実
1662年日向灘地震津波の波源像に関する検討
- P-04 都司嘉宣・今井健太郎
文化元年六月四日（1804年7月10日）出羽象潟地震の詳細震度分布
- P-05 都司嘉宣
元禄関東地震（1703）の2時間後に起きた別府・万年山断層の地震
- P-06 松浦律子・田力正好
1916年8月6日愛媛県東部関川付近の地震：四国中央構造線の唯一の被害地震
- P-07 木下恭子
関東大震災と御用邸の被害－宮内公文書館史料から－
- P-08 篠田海遥・荒井賢一
埼玉県川口市に残る1923年関東大震災に関する記録
- P-09 上村勇輔・荒井賢一
静岡県伊豆半島に被害をもたらした津波と地名から減災を考える
- P-10 宍倉正展
房総半島南西岸の元禄・大正関東地震に関連した隆起生物遺骸群集
- P-11 中村亮一・西山昭仁・原田智也
1855年安政江戸地震の震度分布の特徴について－神奈川県を中心にして－
- P-12 山村紀香・加納靖之・石川良枝
尾道市史編纂室蔵『永記録』の1855年安政江戸地震に関する記述
- P-13 高橋那奈・林 能成
静岡県における1707年宝永地震の震度分布の再検討
- P-14 行谷佑一・今井健太郎
地盤標高の標準偏差を考慮した徳島県内における安政南海津波の被害関数

P-15 原田智也・佐竹健治・古村孝志・室谷智子

震度アンケート調査票の欄外に記述された1944年東南海地震の被害と諸現象

P-16 久永哲也・内田篤貴・原田 怜・佐々木哲朗・岩瀬 聡・浦谷裕明・武村雅之・都築充雄

三重県における南海トラフ沿いの歴史地震津波に関する現地調査結果について

P-17 室谷智子

美術的価値が見出された地震火山資料

P-18 上梶英之・多仁照廣・蝦名裕一

判読可能な津波碑文画像の取得方法の提案